

景気動向調査 令和5年3月分（令和5年3月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【3月の景況】

3月のDIは、9指標のうち、在庫数量DIを除く8指標が好転という結果となった。

主要3指標は、3ヶ月連続ですべての指標が好転。先月と比較して、売上高DIが22ポイント増加、収益状況DIが8ポイント好転、景況感DIも8.7ポイント好転となっている。

また、景況感DIが今回の±0の水準まで回復したのは、平成30年3月以来のことである。

大分県内の状況は、マスクの着用が個人の判断となり、春休みを中心に人流も活発化。観光地にはインバウンド客も多くみられるようになり、個人消費の増加に関する報告が寄せられている。

なお、原油や原材料の価格高騰を受け、販売価格DIは依然+26ポイントと高い水準にある。



景況感 DI 値

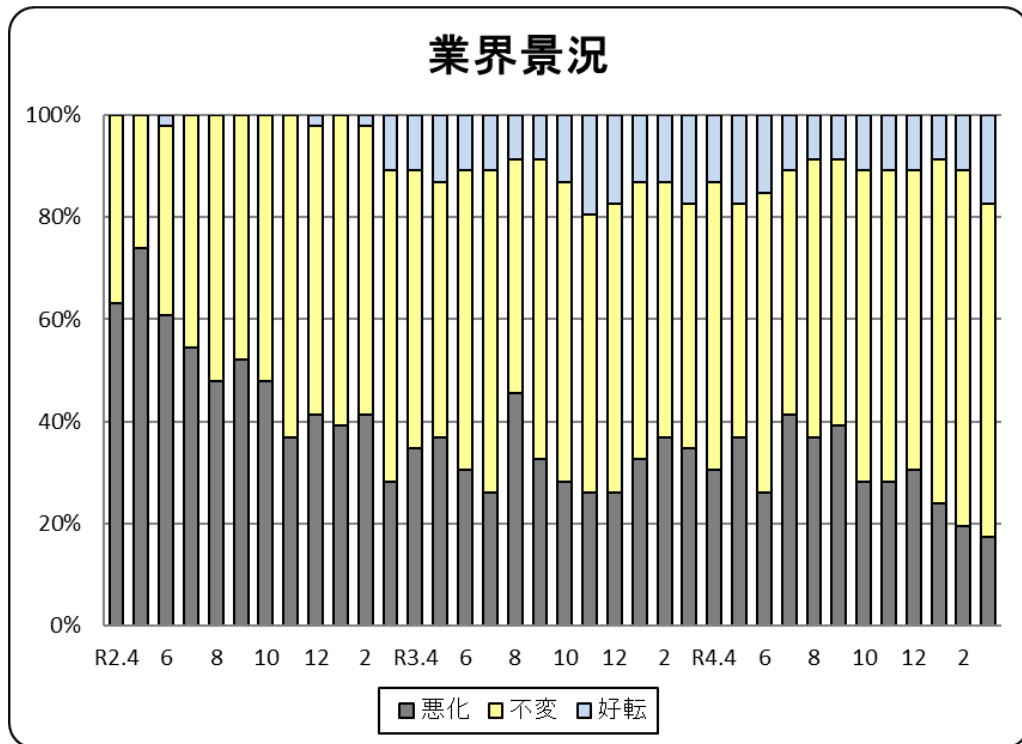


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

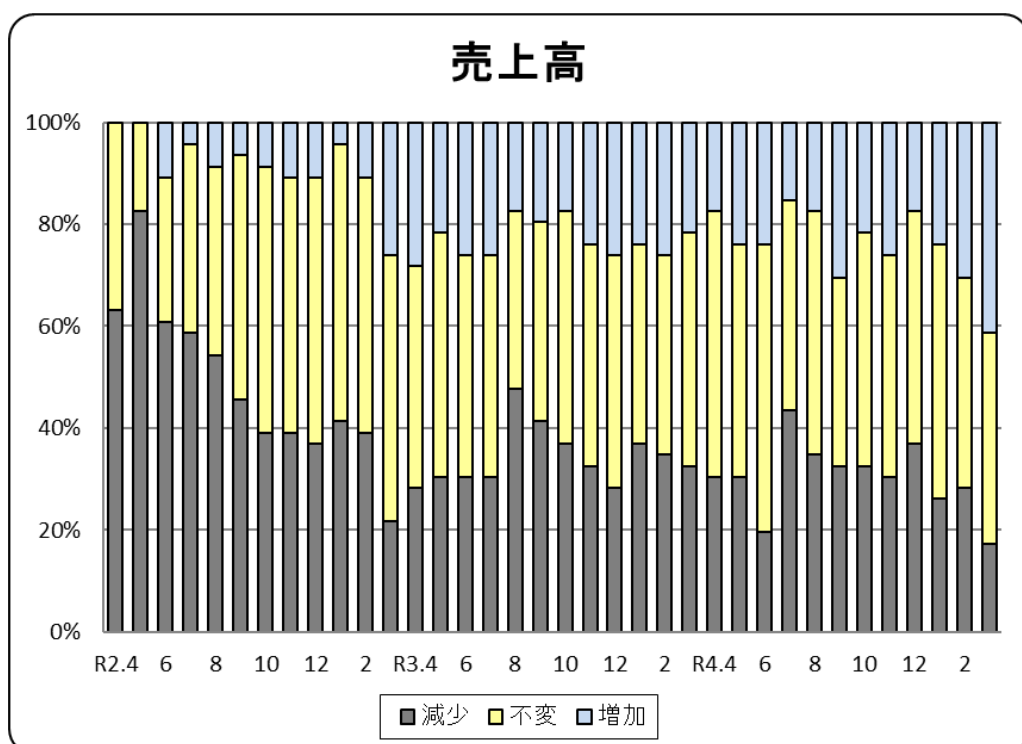
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、前月より22ポイント増加して+24ポイント。収益状況DI値は、△7ポイントで前月より8ポイント好転。雇用人員DI値は、△2ポイントで前月から11ポイント増加となった。

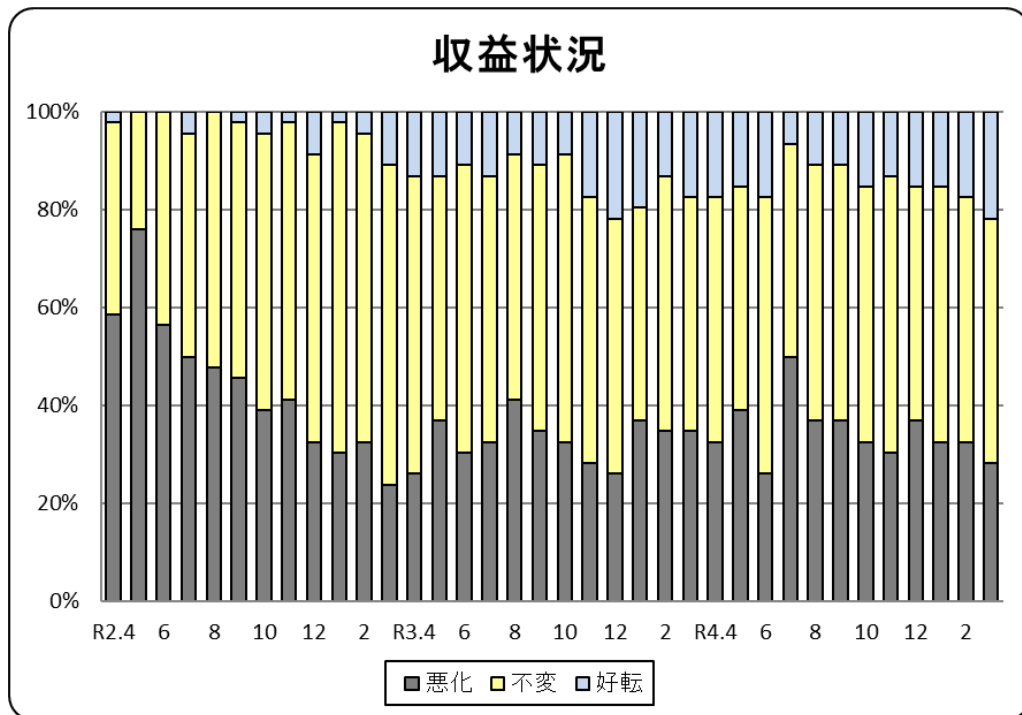
景況の動向は、好転は8組合、悪化は8組合であった。DI値は△0.0ポイントで前月から8.7ポイント好転。割合で見ると、好転17%、不変66%、悪化17%であった。なお、製造業の景況感DI値は△18ポイント、非製造業の景況感DI値は10ポイントであった。



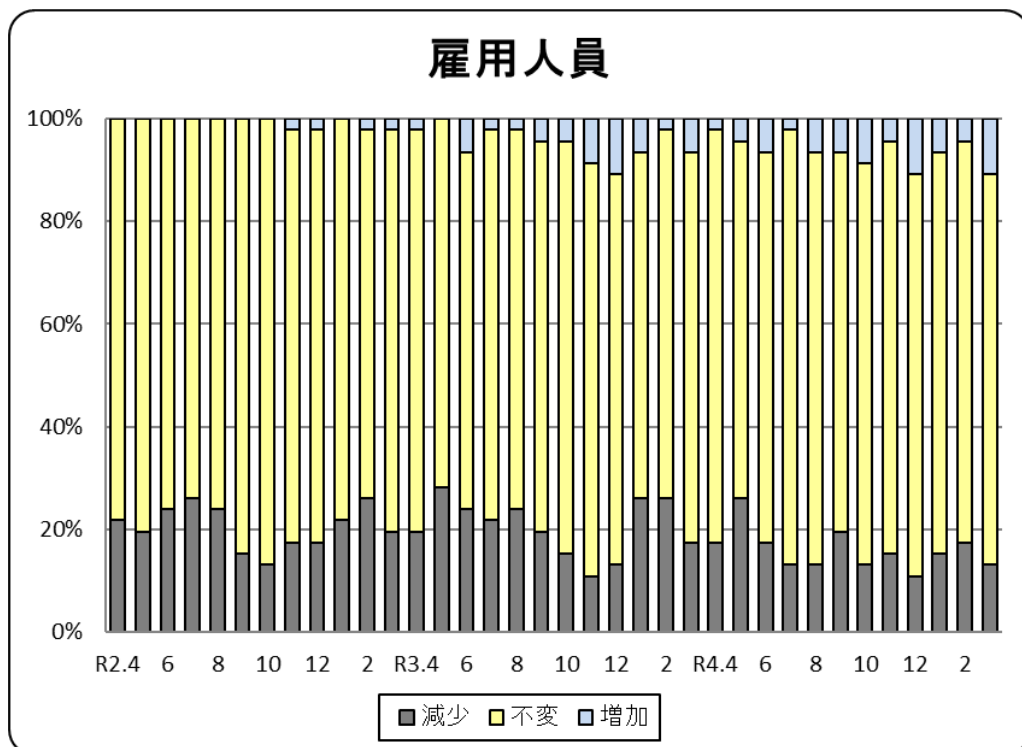
売上高の動向は、増加は19組合、減少は8組合であり、DI値は+24ポイントで前月から22ポイント増加。割合で見ると、増加41%、不変41%、減少18%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は10組合、悪化と回答した組合は13組合であった。DI値は△7ポイントで前月から8ポイント好転。割合で見ると、好転22%、不変50%、悪化28%であった。



雇用人員の動向は、増加は5組合、減少は6組合であった。DI値は△2ポイントと先月から11ポイント増加。割合で見ると、増加11%、不変76%、減少13%であった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数-減少・悪化組合数)÷調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

